

「ありがとう・できましたの木」活動
実施マニュアル



1. 意義
 ◎「ありがとう・できましたの木」とは、他者から感謝の表出である「ありがとうの葉」と自分の達成の表出である「できましたの花」を一つの木に集めたものです。
 ◎「ありがとう・できましたの木」活動では、その二つの思いを一つの場所にまとめ、互いに見合うことで、自他の行動を肯定的に認め合い、気持ちを伝え合う活動を活かし、心の育成につなげていきます。児童が、気持ちを伝えたり、他者が気持ちを認めたりする活動を繰り返し、徐々に変化させて、繰り返すことにより自己有用感をもち、自他を大切にすることを育んでいきます。
2. 実施に向けて
 ◎活動場面は限りの会を想定します。児童が気が付いた時に貼らせるのもよいでしょう。
 ◎この活動は児童が「認められ」「感謝され」「活躍している他の児童の様子」を見て、それを「認め合う」ことで、自己有用感をもち、育んでいく活動になります。児童、家庭や地域とへ活動を広げていき、全体で「認め合い活動」を進めていきましょう。
 ◎「ありがとう・できましたの木」の活動は、クラスだけでなく、学年、学校、家庭や地域とへ活動を広げていき、全体で「認め合い活動」を進めていきましょう。
 ◎「ありがとう・できましたの木」は、全校児童の目に入るところに、常時、掲示しておきます。
 ◎「認め合い」を貼る木は、同じ学年クラスだけに限らず、他学年にも開放していき、全校規模で「認め合い」を広げていくと効果的です。
 ◎活動には、必ず「振り返りの場面」を設け、互いのよさや考えなどを深めていきましょう。

「ありがとう・できましたの木」のイメージ

「ありがとうの葉」には、はじめは「鉛筆を貸してくれてありがとう」のような簡単なことから書けるように始めていきましょう。「●●さんへ」「●●より」を忘れずに！

「できましたの花」には、今日一日の中で「自分にとってできるようになったこと」や「どんどんできるようになってうれしいこと」など自分にとって身近な「できました」を書けるように始めていきましょう！場合によっては、家に帰ってからできるようになったことで、ぜひ、みんなに伝えたいということでもよいと思います。「文章の最後に自分の名前を忘れずに！」

やがて、「ありがとう・できましたの木」に、児童の思いのこもった葉や花が現在の縦道紙いっぱいになったならば、縦道紙を横や縦に貼り足して、「ありがとう・できましたの森」を目指していきませんか？児童は、自分たちの思いや気持ちを表出した葉や花がつくるダイナミックな木の森を見たとき、成就感や他者に必要とされている満足感を感じ、「自他を大切にすることを育むこと」につながっていくことでしょう！

クラス内や席が隣同士との交流場面

スタートは隣同士から

節目活動「学年集会」等

・初めは、隣同士で今週の「ありがとう」を葉に書き、交換することから始めましょう。また、今週を振り返って自分にとっての「できました」が思いつかなければ、隣の人に見つけてもらってもよいので「できましたの花」に書いて貼り付けましょう。

学年全体での交流場面

対象を学級全体から学年全体へ

節目活動「学年交流」等

・活動に慣れてきたらグループ、クラス全体へ広げていきましょう。
・「ありがとうの葉」は、特定の人物に葉が集中することを避けるための配慮と声かけをしていきましょう。

異学年との交流場面

学年全体から学校全体へ

節目活動「人権集中学習」「人権集会」等

・クラス全体での活動に慣れたならば、対象を学年全体まで広げてみましょう。児童たちは、休み時間には他のクラスの友達とも交流しています。その中で認め合い、気づき合ったことを表現できれば、自他を大切にする気持ちを大きく育むことができます。
・学年が慣れたならば学校全体に広げていきましょう。縦割り活動や登校班等の中での気づき合い、認め合いがあれば、他の学年クラスの「ありがとう」の場所まで貼らせてみましょう。他学年からの葉は、もらった児童やそれを見ていた児童にとって、大きな喜びになることでしょう。

地域や家庭との交流場面

家庭や地域の方へ「ありがとう」

節目活動「学年集会」等

・学校全体まで広げた活動が慣れたならば、家庭の中で「ありがとう」「できました」を自分のクラスの木に貼ることに活動を広げてみましょう。
・家庭や地域との交流は自分が「大事にされている」という事に気付き、自他を大切にする気持ちを育むことができるでしょう。また、「開かれた学校」としての地域・家庭・学校の連携にもつながっていくことでしょう。

★「ありがとう・できましたの木」は基本ベースです。
「サポートカード」を併せて活用し、学級ごとのアレンジを！